

なぜファシズムが再び台頭したのか

【訳者注】やや長い読み物だが、これは大多数の人にとって、目からウロコが落ちる、簡潔な現代世界史といってよいだろう。著者自身を含めて、我々のほとんどが巧妙に騙され、目をそらされていたことに気づく。これを読まれた方は、ぜひ友人知人にご推奨願いたい。

関連文献：[ベネズエラを支援しよう.pdf](#)

John Pilger

February 26, 2015 (RT)



キエフにおける「真理のマーチ」

アウシュビッツの解放から 70 周年の記念行事は、ファシズムの大きな犯罪を思い出させるもので、そのナチスの映像は我々の記憶に深く根付いている。

ファシズムは、歴史として、あの足を高く上げて歩く黒シャツ隊として、恐ろしくかつ鮮明な犯罪として保存されている。にもかかわらず、その同じ自由主義社会で、その戦争屋エリートたちが決して忘れるなど言っている同じ社会で、現代種のファシズムの加速する危険が報道されないでいる——なぜならそれは**彼らの**ファシズムだからだ。

1946 年、ニュルンベルグ裁判の裁判官たちはこう言った——「侵略戦争を仕掛けることは国際的な犯罪であるのみならず、それは最悪の国際犯罪であって、他の戦争犯罪と違うのは、蓄積された悪の全体がその中に含まれているという一点である。」

ナチスがもしヨーロッパを侵略しなかったなら、アウシュビッツやホロコーストは起こらなかったであろう。もしアメリカとその衛星国が、2003年に、イラクで侵略戦争を始めなかったなら、ほとんど百万にのぼる人々が今も生きていだろう。そしてIS過激派が、我々をその野蛮行為の対象にすることはなかっただろう。彼らは、現代のファシズムの生み出した産物であり、爆弾や血の風呂、それにニュースと呼ばれる超現実芝居のウソから、乳離れした者たちである。



前ナチスドイツの強制収容所風景

1930年代、40年代のファシズムと同じく、大きなウソが、メトロノームの正確さで配達されている——どこにでもある繰り返すメディアと、省略という犯罪的な検閲のおかげで。リビアの破局的破壊を例にとってみよう。

2011年、NATOはリビアに対して9,700回の“空爆出撃”を行い、その3分の1以上が民間人を標的にしたものだ。ウラン核弾頭が用いられた。MisurataやSirteなどの都市は絨毯爆撃を受けた。赤十字が集団墓地を確認し、ユニセフは「殺された子供たちの大部分が10歳以下だった」と発表した。

リビアの大統領ムアンマー・カダフィが、“反逆者”に銃剣で突き刺されるという公開処刑が、時の米国务長官ヒラリー・クリントンによって、「我々は来た、我々を見た、彼は死んだ」という言葉で迎えられた。カダフィ殺しが、彼の国家の破壊とともに、「彼は自国民に対するジェノサイドを計画している」という、よく知られた大嘘で正当化された。「我々はわかっていた…もしあと一日でも待っていたら、シャーロット市ほどの大都市ベンガジが大量虐殺され、それはその地域全体に反響し、世界の良心に汚点を与えたことだろう」と、オバマは言った。



前リビアのリーダー、カダフィ大佐

これは、リビア政府軍によって敗北に直面させられていた、イスラム過激派軍団による作り話だった。彼らはロイター通信に対して、「かつてのルワンダのような、本当の大流血、大虐殺があるだろう」と話した。2011年3月14日に報道されたこのウソは、デイヴィッド・キャメロンが“人道的介入”と呼んだ、NATOの地獄に至る最初の火種となった。

SAS（英陸軍特殊部隊）によって密かに集められ、訓練されたこの“反逆者団”の多くは、後にIS過激集団になったが、彼らの提供する最近のビデオは、NATOの爆撃機によって破壊された都市 Sirte で捕えられた21人のコプト・キリスト教労働者の、首刎ねを示している。

オバマ、キャメロン、オランダにとって、カダフィの本当の“犯罪”は、リビアの経済的独立、そしてアフリカ最大の埋蔵石油を、米ドルで売ることを中止すると宣言したことだった。石油ドルは、アメリカの帝国権力の柱である。

カダフィは大胆にも、金に担保されたアフリカ共通の通貨を承認し、一つの全アフリカ銀行を設立し、貴重な資源をもつ貧困国同士の、経済同盟を押し進める計画をしていた。これが実現するかどうかに関係なく、この考え自体が、アフリカに“侵入し”、軍事“パートナーシップ”によってアフリカの諸政府を買収する計画をしていたアメリカには、耐えられないことだった。ある安保理決議の陰に隠れて行った NATO の攻撃に続いて、オバマは—— Garikai Chengu [ジンバブエ出身のハーバード大学研究者]によると——「リビアの中央銀行から300億ドルを没収したが、これはカダフィが、〈アフリカ中央銀行〉とアフリカの金本位ディナール通貨の設立のために、用意していたものだった。」

リビアに対する“人道的戦争”は、特にメディアにおける、西側のリベラルな情に近いモデルに基づいていた。1999年、ビル・クリントンとトニー・ブレアは、セルビアを爆撃する

ために NATO を送ったが、その理由は、彼らのウソだが、セルビア人が、コソボの分離派地域のアルバニア民族に対する“ジェノサイド”を行っていたからだった。アメリカの戦争犯罪特使 David Scheffer は、「225,000 人の 14 から 59 歳のアルバニア民族の男性」が、殺されたかもしれないと主張した。クリントンもブレアも、ホロコーストだとか“第二次大戦のやり方” などと言った。西側の英雄的な同盟国はコソボ解放軍 (KLA) で、彼らの犯罪記録は不問に付された。英外務長官 Robin Cook は彼らに、どんなときも彼の携帯電話に連絡するように言った。



NATO の空爆が続く 1999 年 3 月 29 日、Pristina の破壊された家の近くを歩く人

NATO の爆撃が終わり、セルビアの多くのインフラストラクチャーが、学校、病院、僧院、国営 TV ステーションなどと共に廃墟に帰したとき、国際調査団がコソボに降りて、“ホロコースト” の証拠を掘り起こそうとした。FBI は一つの集団墓地も見つけれずに帰国した。スペインの調査団が同じことをしたとき、そのリーダーは怒って、「戦争プロパガンダ機械による意味のすり替え」だと弾劾した。一年後、ユーゴスラビアに関する国連裁判が、コソボの死者の最終総計を 2,788 人と発表した。これは両側の戦闘員と、KLA によって殺されたセルビア人とロマ人を含むものだった。ジェノサイドなどなかった。“ホロコースト” はウソだった。NATO の攻撃は詐欺的なものだった。

このウソの背後には真剣な目的があった。ユーゴスラビアは、特異な、独立した多民族連合で、冷戦時代の政治的・経済的な橋として存在していた。その公共設備や主な建造物のほとんどは、公的な共有物だった。これは、拡大するヨーロッパ共同体にとって受け入れがたく、特に新しく結合したドイツにとってそうだった。ドイツは東へ進出して、クロアチアとスロ

ベニアのユーゴスラブ地域の“自然市場”を確保しようとしていた。ヨーロッパ人が 1991 年にマーストリヒトに会して、悲惨なユーロ・ゾーンのための計画をするまでは、秘密の取引が行われていた。ドイツはクロアチアを承認しようとした。ユーゴスラビアは滅びるしかなかった。

ワシントンの政策で、アメリカは、苦闘するユーゴスラビアの経済には、世界銀行のローンを拒否することにした。そのとき、ほとんど機能しない冷戦の遺物になっていた NATO が、帝國的権力執行者として再発明された。フランスのランブイエにおける、1999 年のコソボ“平和”会議では、セルビア人は、この権力執行者の二枚舌的な戦術に従わされた。ランブイエ合意には、ある秘密の「補遺 B」が含まれていて、これをアメリカ代表は最後の日に挿入した。これは、全ユーゴスラビア——ナチによる占領のよりましな記憶をもった国家——の軍事的占領と、“自由市場経済”の実行と、すべての政府資産の私有化を要求するものだった。いかなる主権国家もこれにサインすることはできないだろう。処罰は敏速に行われた。NATO の爆弾が無防備の国家の頭上に降ってきた。それは、アフガニスタンとイラク、シリアとリビア、それにウクライナの破局の先駆をなすものだった。



2011 年 7 月 21 日、トリポリ近くの Zliten の、NATO の空爆によって破壊されたとリビア政府の言う、ある運送会社の敷地を歩く男性

1945 年以来、国連加盟国の 3 分の 1 以上——69 か国——が、アメリカの現代ファシズムの手によって、次にあげる被害のいくつか、あるいは全部を、受けてきた。彼らは侵略され、政府を覆され、人民の運動を禁圧され、選挙結果を逆にされ、国民を爆撃され、経済のすべての保護を取り上げられ、“制裁”と言われる足枷をはめられてきた。英国の歴史家 Mark Curtis は、死者数を何百万という単位で見積もっている。すべてのケースにおいて、ある大きなウソが展開された。

「今夜、9・11以来初めて、アフガニスタンにおける我々の戦闘ミッションが終わりました」——この言葉は、オバマの2015年一般教書演説の冒頭である。実際には、1万ほどの部隊と、2万ほどの軍事契約者（傭兵）が、不定の仕事を課せられてアフガニスタンに残っている。「アメリカ史上最も長かった戦争が、責任ある結論に達しようとしています」とオバマは言った。実際は、2014年のアフガニスタンでは、国連が記録を取りだして以来、どの年よりも多くの一般市民が殺された。その大多数が——市民、兵士とも——オバマが大統領であった期間に殺されている。

アフガニスタンの悲劇は、インドシナでの画期的犯罪に肩を並べるものである。称揚され、よく引用される本 *The Grand Chessboard: American Primacy and Its Geostrategic Imperatives* で、アフガニスタンから現在までの米政策の生みの親であるブレジンスキー（Zbigniew Brzezinski）は、もしアメリカがユーラシアをコントロールし、世界を支配しようと思うならば、それは民衆的デモクラシーを維持することはできない、それは「権力の追及は民衆の情熱を要求する目標ではないからだ、…民主主義は帝國的な動員とは相容れないものだ」と言っている。彼は正しい。ウィキリークスとエドワード・スノーデンが暴露したように、監視と警察国家が民主主義を追い出しつつある。1976年、カーター大統領の国家安全保障アドバイザーだったブレジンスキーは、アフガニスタンの最初で唯一の民主主義に死の一撃を与えることによって、彼のポイントを証明した。この致命的な歴史を誰が知っているだろうか？



2010年4月5日、Helmand地域にて——パトロール基地の屋根の下で、タリバンからの砲火を受けながら対戦車ロケットを撃ち込む米海兵隊が、バックファイアをよけている。

1960年代に、地上で最も貧しい国アフガニスタンに民衆革命の嵐が吹き荒れ、1978年、ついに貴族体制のわずかの名残もなくなった。アフガニスタン人民民主党（PDPA）が政府を形成し、封建主義の廃止、全面的な宗教の自由、女性の権利の平等、少数民族への社会的正義、などを含む改革計画を宣言した。13,000以上の政治犯が解放され、警察のファイルが公的に焼却された。

新しい政府は、最貧の人々のための無料の医療制度を導入した。借金返済のための労役は廃止され、集団的識字運動が始まった。女性にとって、その利益は前代未聞だった。1980年代後半までに、大学生の半数が女性となり、女性が、アフガニスタンの医者のおよそ半数、公務員の3分の1、教師の大多数を占めた。女性の外科医である Saira Noorani は振り返ってこう言っている——「すべての少女が高校と大学へいくことができた。我々はどこへでも好きなところへ行け、好きな服装ができた。我々はカフェに行き、金曜日には最新のインド映画を見に映画館へ行き、最新の音楽を聴くことができた。それが、ムジャヒディンが勝ち始めてから、悪い方へ向かっていった。彼らは教師を殺し、学校を焼いた。我々は震え上がった。こうした人たちを西洋が支持していると考えるのは、奇妙で悲しいことだった。」

PDPA 政府はソ連の後押しを受けていたが、前国務長官 Cyrus Vance が認めているように、「ソ連が革命に加担したという証拠はなかった」。世界中で起こってきた解放運動が、次第に自信を得ていくのを警戒したブレジンスキーは、もしアフガニスタンが PDPA の下で成功するようなことがあれば、その独立と進歩は、“将来、希望のある脅威の例”になるだろうと判断した。

1979年7月3日、ホワイトハウスは、ムジャヒディンとして知られる、民族的“根本主義”集団を支援することを密かに決定した。これは、アメリカの軍備や他の援助の形で、年間5億ドル以上を要する計画だった。目的は、アフガニスタンの初めての、世俗的、改革的政府を引き倒すことだった。1979年8月、カブールのアメリカ大使館はこう報告した——「アメリカのより大きな利益は、PDPA 政府を倒すことによって得られるだろう——これがアフガニスタンの将来の社会的・経済的改革にとって、どんな不利益をもたらそうとも。」強調は私のもの。

ムジャヒディンは、アルカーイダとイスラム国の先祖だった。そこには Gulbuddin Hekmatyar も含まれていた。この男は CIA から何千万ドルという現金を受け取った。Hekmatyar の専門の仕事はアヘン取引と、ヴェールを被ろうとしない女性の顔に酸を投げつけることだった。ロンドンに招かれたとき彼は、サッチャー首相から「自由の戦士」として称賛された。

このような狂信者は、もしブレジンスキーが、中央アジアでイスラム根本主義を推進する国際的な運動を始めなかったら、彼らの部族世界の内部にとどまっていたかもしれない。しかし彼はそのようにすることによって、世俗的政治による解放を切り崩し、ソ連を“不安定化”させ、彼が自伝に書いているように、「若干の扇動されたムスリム」をつくり出すのが狙いだった。彼のグランド・プランは、パキスタンの独裁者 Zia ul-Haq 将軍の、この地域を支配しようとする野望と一致した。1986年、CIA とパキスタンの情報部 ISI は、世界中から人を募ってアフガンのジハード（聖戦）に参加させる運動を始めた。サウディのマルチ富豪オサマ・ビン・ラディンはその一人だった。後にタリバンやアルカーイダに参加することになる実行部隊は、ニューヨーク州、ブルックリンのイスラム大学で募集され、バージニア州の CIA キャンプで軍事訓練を受けた。これは“サイクロン作戦”と呼ばれた。その作戦が祝賀されたのは、1996年、最後の PDPA アフガニスタン大統領、ムハンマド・ナジブラー——彼は国連総会の前に出て助けを求めた——が、タリバンによって街灯柱から吊るされたときだった。

サイクロン作戦とその“若干の扇動されたムスリム”が逆輸入されたのは、2001年の9・11だった。サイクロン作戦は“テロへの戦争”に変化した。そして無数の男、女、子供たちが、アフガニスタンから、イラク、イエメン、ソマリア、シリアまで、ムスリム世界を通じて、命を失うことになった。これを仕切る者のメッセージは、その時も今も、「君たちは我々に付くか、我々に敵対するか」である。

ファシズムの共通点は、昔も今も、大量虐殺である。アメリカのベトナム侵略でも、その“自由発砲ゾーン”、“作戦死者”、“付随的被害者”があった。私の報道の拠点だった Quang Ngai 省では、何千という一般市民（gooks と呼ばれた）がアメリカによって殺された。しかし My Lai（ソンミ村）での一度の虐殺だけが記憶されている。ラオスやカンボジアでは、史上最大規模の空爆が、画期的な恐怖の光景をつくり出したが、これは、空からはまるで巨大なネックレスのように見える、つながった爆撃クレーターの写真に示されている。この爆撃が、ポール・ポトに率いられた、カンボジア自身の IS 過激派をつくり出した。

関連記事：「ポール・ポトから ISIS へ：“すべての動くものに飛びかかるもの”」

(<http://rt.com/op-edge/194608-isis-iraq-kissinger-syria-obama/>)

今日、世界最大の唯一のテロ・キャンペーンは、家族、結婚式の招待客、葬式の参列者すべての処刑を要求する。これがオバマの犠牲者たちである。ニューヨーク・タイムズによれば、オバマは、火曜日毎に、ホワイトハウスの「情報分析室」から与えられる CIA の“殺しリスト”から行動を選択している。彼はそこで、何の法的正当さもなしに、誰を生かし、誰を殺すかを定める。彼の処刑兵器は、drone と呼ばれる無人の航空機によって運ばれるヘルプ

アイア（地獄の業火）・ミサイルである。これらが彼らの犠牲者を焼き殺し、そのあたりに残骸のクモの巣をかける。一つひとつの“ヒット”は、遠くのテレビ・スクリーンに“bugsplat”（つぶされた虫）として登録される。

歴史家の Norman Pollock は書いている——「ナチス兵士の代わりに、我々は見たとこ無害な、文化全体の軍国主義をもっている。怒鳴るリーダーの代わりに、欠陥のある改革者を持ち、彼は陽気に働き、暗殺を計画しながら、いつもニコニコ笑っている。」

ファシズムの古いのと新しいのを結び合わせているのは、優越感のカルトである。「私はアメリカ別格主義を骨の髄から信じている」と、オバマは、1930年代の国家フェティシズム宣言を呼び起こして言った。歴史家 W. McCoy が指摘したように、「主権者とは例外（別格）を決定する者のことだ」と言ったのは、ヒトラー帰依者のカール・シュミットだった。これがアメリカ精神、世界支配イデオロギーを要約している。それが略奪のイデオロギーとして認められていないのは、同じくらい認められていない洗脳の結果である。陰険で、口には出さず、巧妙に啓蒙思想として見せびらかしている、このうぬぼれは、西洋文化にひそかに浸透している。私は、そのほとんどすべてが歪曲である、アメリカの栄光を描く映画を、心の糧として育ってきた。私は、ナチスの戦争機械のほとんどを 1,300 万もの兵士を犠牲にして破壊したのは、赤軍だったことを知らなかった。これに対して、アメリカの損失は、太平洋のそれを含めて 40 万に過ぎない。ハリウッドはこれを逆さにしている。

今これとは違って、映画鑑賞者は、アメリカのサイコパス（病的に良心をもたない人）たちが、遠隔地の人々を殺さなければならない“悲劇”を、苦痛に耐えながら見るように要請されている——大統領自身が彼らを殺しているように。ハリウッドの暴力を体現するような俳優で監督のクリント・イーストウッドは、映画『アメリカン・スナイパー』で、今年のオスカー賞にノミネートされた。これは許可を受けた殺人者にして狂人の話である。ニューヨーク・タイムズは、これを「愛国的で家族支持の、初日から観客記録を破った映画」と評した。

アメリカのファシズムを擁護する英雄的な映画はない。第二次大戦中に、アメリカ（とイギリス）は、ギリシャのナチズムの興隆に抵抗していた英雄的なギリシャ人たちに、戦争を仕掛けた。1967年、CIAは、アテネのファシスト軍臨時政府を権力の座につけた——ブラジルやほとんどのラテン・アメリカでやったように。ドイツ人や東ヨーロッパ人で、ナチスの侵略や人道に対する罪に協力した者たちが、アメリカで安全な居場所を提供された。その多くが甘やかされ、その才能には報酬が与えられた。ウェルナー・フォン・ブラウンは、ナチスの V-2 テロ爆弾とアメリカの宇宙計画の、両方の“父”だった。

1990年代に、前ソ連の共和国、東ヨーロッパ、それにバルカン諸国が、NATOの軍事前哨地になったとき、ウクライナのナチ運動の後継者たちが、機会を与えられた。ナチスのソ連侵攻の間に、何千というユダヤ人、ポーランド人、ロシア人を殺したウクライナ・ファシズムが、立ち直りの機会を与えられ、その“新しい波”が“ナショナリスト”として、力の行使者（米）から歓迎された。

このファシズムは、2014年、オバマ政権が、選挙された政府に対するクーデタに50億ドルを注ぎこんだとき、その頂点に達した。衝撃的だったこの部隊は、右セクターとスヴォボダと呼ばれるネオ・ナチスだった。そのリーダーの一人に、“モスクワ・ユダヤ人マフィア”や、ゲイやフェミニストや、政治的左翼を含む“その他のカスども”を追放せよと叫ぶ、Oleh Tyahnybok がいた。

これらのファシストたちは今、キエフのクーデタ政府に組み込まれている。ウクライナ議会で最初の発言をした代議士で、与党の党首である **Andriy Parubiy** は、スヴォボダの共同創始者である。2月14日に、パルビーは、ワシントンに飛んで「高度に精巧な現代的兵器をアメリカから調達する」予定だと宣告した。もし彼が成功すれば、ロシアはそれを戦争行為と見るだろう。

いかなる西洋のリーダーも、ヨーロッパの真ん中でファシズムが再興すると言った者はいない——例外は、ウクライナの境界線を越えてやってきたナチスの侵略者たちに、その人民の2,200万を失った、ウラジミール・プーチンただ一人だった。最近のミュンヘン安全保障会議で、オバマの、ヨーロッパ・ユーラシア担当国務次官補ビクトリア・ヌーランドは、ヨーロッパのリーダーたちが、アメリカがキエフ政府に兵器を与えるのに反対するのに腹を立て、喚き散らした。彼女は、ドイツ防衛長官のことを「敗北主義長官」だと言った。キエフのクーデタを仕切ったのは、このヌーランドだった。彼女は、指導的ネオ・コンで、極右の「ニュー・アメリカ世紀計画」の共同創始者 **Robert D. Kagan** の妻であり、ディック・チェイニーの外交政策アドバイザーだった。



オデッサの労働組合本部の火事

ヌーランドのクーデタは、計画通りにはいかなかった。NATO は、クリミアにおけるロシアの、歴史的、合法的、不凍海軍基地を奪おうとして、妨げられた。ほとんどがロシア人であるクリミアの人民——1954年、ニキタ・フルシチョフによってウクライナに不法に編入された——は、1990年代に行った通り、圧倒的多数でロシアに戻る票決をした。この国民投票は自由意志によって民衆が行い、国際的に観察されていた。侵略はなかった。

これと同時に、キエフ政府は、東部のロシア民族国民に対して、民族浄化の残忍さで立ち向かった。彼らはネオ・ナチ軍団を、ヒトラー親衛隊のように展開させて、都市や町を爆撃し包囲した。彼らは、集団飢餓や、電気の切断や、銀行口座の凍結を武器として用い、社会保険や年金を停止した。百万以上の亡命者が国境を越えてロシアに逃げた。西側のメディアでは、彼らは“ロシアの侵略”が原因で起った“暴力”を逃れる、非人民になった。NATOの司令官 Breedlove 将軍は、4万のロシア軍部隊が“ひと塊りになっている”と宣言した。法的な衛星証拠の時代に、彼はそれを全く示さなかった。

これらロシア語を話す、バイリンガルのウクライナ国民——全国民の3分の1——は、ずっと前から、この国の多様な民族を反映し、自律的で、モスクワからは独立した連邦制度を希望していた。ほとんどの人々は“分離主義者”ではなく、自分の祖国に安全に住むことを願い、キエフの権力強奪に反対する市民たちである。彼らの反逆と、自律的“国家”の設立は、キエフの彼らへの攻撃への反応である。このことは、ほとんど西側の聴衆には説明されていない。

2014年5月2日、オデッサで、41人の民族的ロシア人が、労働組合本部において、警察が見ているところで、生きたまま焼き殺された。「右セクター」リーダーの Dmytro Yarosh は、この虐殺を“我々の国民歴史におけるもう一つの素晴らしい日”だったとして歓迎した。ア

アメリカとイギリスのメディアでは、これは、“ナショナリスト”（ネオ・ナチ）と“分離主義者”（ウクライナ連邦に関する国民投票のための署名を集めている人々）の間の“衝突”から生ずる“暗い悲劇”だとして報道された。

ニューヨーク・タイムズは、ファシストについての警告をロシアのプロパガンダとして切り捨てたあとで、この物語を隠ぺいした。ウォールストリート・ジャーナルは、犠牲者を非難する見出しをつけた——「恐ろしいウクライナの火事、反逆者による放火か、政府談話」。オバマは、臨時政府をその“抑制”のために称えた。

もしプーチンが挑発に乗って彼らを助けに来るようなことがあれば、ロシアはウクライナを侵略しているというウソが、本当になってしまうだろう。1月29日、ウクライナのトップ軍司令官 **Viktor Muzhenko** 元帥が、ほとんど不用意に、アメリカと EU がロシアに制裁を課している根拠そのものを否定する発言をした。彼は記者会見で強調してこう言った——「ウクライナ軍はロシア軍の正規部隊と戦ってはいない」。「個人的な市民」で「法的でない武装集団」に加わっている者はいた。しかしロシアの侵略はなかった。これはニュースにならなかった。キエフの外務副長官 **Vadym Prystaiko** は、核武装したロシアとの“全面戦争”を求め続けている。

2月21日、米上院議員の **James Inhofe**（オクラホマ選出、共和党）が、アメリカの兵器をキエフ政府に供給することを認める法案を持ち出した。上院での説明の中で彼は、ロシア軍がウクライナに越境していると称する写真を用いたが、これはニセモノであることがとうの昔に暴露されているものだ。それはロナルド・レーガンの示した、ニカラグアのソ連の施設だというニセ写真や、コリン・パウエルが国連に示した、イラクの大量破壊兵器のニセ証拠を思い出させるものだった。

ロシアに対する泥塗りキャンペーンのすさまじさと、その大統領をパントマイムの悪漢のように描くやり方は、私が記者として、これまで経験したことのないものである。アメリカの最もすぐれた調査ジャーナリストで、“イラン・コントラ” スキャンダルを暴いた **Robert Parry** は、最近こう書いた——

アドルフ・ヒトラーのドイツ以来、いかなるヨーロッパの政府も、自国民に対して戦争を仕掛けるために、ナチの掃討作戦がふさわしいと考えた政府はない。しかしキエフ政権はそれを行い、しかも故意に行ってきた。にもかかわらず、西側のメディア/政治のすべてを通じて、この現実を何としても隠そうとする努力が見られ、それは完全に確立された事実をさえ無視している。…もし、1世紀前の第一次大戦の時のように、世界が第三次大戦に突っ込むことなど、あり得ないだろうとあなたが思うなら、事実も理性も

全く通用しなかった、ウクライナをめぐる狂気を見ればよい。



ニュルンベルグ裁判の被告席の様、1945~46頃（前列左から右へ、ヘルマン・ゲーリング、ルドルフ・ヘス、ヨアヒム・フォン・リッペントロップ、ヴィルヘルム・カイテル、2列目左から右へ、カール・デニッツ、エーリッヒ・レーダー、バルドゥル・フォン・シラク、フリッツ・ザウケル）

1946年、ニュルンベルグ裁判の検察官は、ドイツのメディアについてこう言った——

ナチ共謀者たちによる心理作戦の使用はよく知られている。大きな侵略を始める前に決まって——応急的なわずかの例外はあるが——彼らは、自分たちの犠牲者を弱め、ドイツ国民を心理的に攻撃準備させるように計算された新聞キャンペーンを行った。ヒトラー帝国のプロパガンダ体制では、最も重要な兵器は毎日の新聞とラジオだった。

2月2日のガーディアン紙で、オックスフォード大教授 Timothy Garton-Ash は、実質的に戦争を求めている。「プーチンを阻止せよ」と見出しは言った。「時には銃を止めるのは銃だけだ。」戦争の脅威は「ロシアの包囲恐怖症を大きくするかもしれない」が、それでいいのだ、と彼は言った。彼は、そうするのに必要な軍事装備の名をあげてチェックし、「アメリカの方が装備は優っている」と読者に保証した。

2003年に、オックスフォードのガートン・アッシュ教授は、イラクの大虐殺につながったこの同じプロパガンダを行っている。サダム・フセインは「(コリン) パウエルが保証したように、恐ろしい化学・生物兵器の大量のストックを持っていて、残りは隠している。彼はその上、核兵器まで持とうとしている」と書いた。彼はブレアのことを、「グラッドストーン的、キリスト教的な、リベラルな介入主義者だ」と褒めた。2006年には、「今、我々はイラ

クの後で、西側の次の大きな試練に直面している——イランだ」と書いた。

この大言壮語——あるいはガートン・アッシュの好んで言う「苦渋のリベラルな両価値表現」——は、ファウスト的取引を結んだ、大西洋兩岸のリベラル・エリートの典型と言えなくもない。戦争犯罪人ブレアは、彼らの惜しまれて去ったリーダーである。ガートン・アッシュの論説の出たガーディアン紙は、アメリカのステルス爆撃機の全ページ広告を出した。このロッキード・マーチンの怪物の脅迫めいた写真には、このような言葉が添えてあった——「F-35機、イギリスにとって素晴らしい」。このアメリカの「装備」は、イギリスの納税者に13億ポンドを要求するが、その前身のFモデルは世界中で殺戮を行っている。広告主に調子を合わせて、ガーディアンの社説は軍事費の増加を要求した。

ここにも再び真剣な目的がある。世界の支配者たちがウクライナを欲しがるのは、ミサイル基地としてだけではない。彼らはその経済を求めている。キエフの新しい財務長官 **Nataliwe Jaresko** は元米国務省高官で、アメリカの海外“投資”を担当していた。彼女は急いでウクライナ市民権を与えられた。

彼らはウクライナの豊富なガスを狙っている。副大統領ジョー・バイデンの息子は、ウクライナ最大の石油・ガス・フラッキング会社の重役である。悪名高いモンサント社のような、遺伝子組み換え種子の製造者たちは、ウクライナの豊かな農地を欲しがっている。

中でも彼らが欲しいのは、ウクライナの巨大な隣国ロシアである。彼らはロシアを分割するかバラバラにして、地上最大の天然ガス資源の搾取を狙っている。北極の氷が解けるにつれて、彼らは、北極海とそのエネルギー資源、そしてロシアの長い北極地ボーダーの支配権を欲しがっている。モスクワの彼らのお気に入り、酔っぱらいのボーリス・エリツィンで、彼は自国の経済を西側に手渡してしまった。彼の後継者プーチンが、主権国家としてのロシアを建て直した。それが彼の犯罪である。

我々残りの者たちの責任は明らかである。それは戦争屋どもの向う見ずなウソを見つけ出して暴くこと、そして決して彼らの仲間にならないことである。それは、か弱い文明を現代の帝国主義に引き渡してしまった偉大な民衆運動を、再び覚醒させることである。最も重要なことは、我々自身、我々の心、我々の人間性、我々の自尊心が奪われないようにすることだ。もし我々が沈黙していたら、我々の敗北が確実なものになり、ホロコーストが待ち受けている。

(ジョン・ピルガーは、ロンドンをベースとするジャーナリスト、映画製作者、作家、
www.johnpilger.com)